

【要約】

Differences of interest in human body structures among specialized fields of paramedical revealed by a questionnaire after anatomical tour: a study aiming at an effective anatomical instruction

(解剖見学後のアンケートから導かれたパラメディカル専門分野による人体構造への関心部位の違い ～有効な解剖学指導を目指して～)

千葉大学大学院医学薬学府  
先端医学薬学専攻  
(主任：清水 栄司 教授)  
坂本 昇

## 【目的】

現状の解剖学教育において、医学生・歯学生は人体解剖実習を通じて人体構造に対する理解を深めているが、パラメディカル養成校（以下養成校）では、解剖学の講義は必修だが、解剖実習は必須ではない。しかし多くの養成校では人体解剖見学実習（以下見学実習）を行っており、このことは、見学実習をカリキュラムに組み込む養成校が多く存在し、見学実習を行う必要性があることを示していると思われる。このように医学生・歯学生とパラメディカル学生（以下学生）の間では、解剖学教育の体制が異なり、結果として人体構造に対する理解の程度は両者の間で大きな差が生じることになります。パラメディカルスタッフは様々な疾患を抱えた患者と直接的に関わっているため、学生が人体構造についての知識をより深めたうえで患者に関わることはチーム医療を進めていくうえで大変意義深いと思われる。例えば、理学療法士であれば筋や関節へのアプローチ、看護師であれば静脈注射や血圧測定など、いずれも治療やケアの目的を達成するためには人体内部構造を体表から正確にイメージできることは、医療事故防止にもつながる重要な能力になりうる。

千葉大学では年間を通して様々な職種の学生を受け入れており学生の満足度も高いものの、専門分野が違う学生に対し「果たして同じ方式での実習でよいものか」と疑問に至った。見学実習についてのこれまでの報告では、非常に有意義であったという内容や、理学・作業療法士学生の興味を持った部位の報告などがあるが、様々な専門職種によって、「興味の持つ部位の違いについて」の報告はない。

そこで、本研究では見学実習を実施した学生が、興味関心を抱く人体構造部位の傾向を明らかにすることとした。これが明らかになれば今後の解剖見学実習の在り方や効果的、効率的な実習を実施するために役立てることができると考えられた。また、見学時に有効な解剖学指導を行うためには、専門分野ごとに関心の高い部位を重点的に指導する必要があると考えられる。

## 【対象と方法】

本研究では解剖見学後に、専門分野ごとに見学してためになった（関心の高い）部位について記名式質問紙法によるアンケート調査を実施した。対象は2013年7月～2016年3月に千葉大学医学部において見学を行った26校の学生であり、同意書とともに提出された回答840件を解析対象とした。回答からためになった（関心の高い部位）人体構造に関する用語を抽出し、専門分野ごとにその頻度を解析した。本研究は千葉大学医学部倫理審査委員会の承認を得て行った。アンケート回収後、自由記載で記入された人体部についての単語を抜き出し、意味の似通った部位ごとに分類をした。なお、文脈中に同じ意味を示す単語については、合わせて1回答としてカウントした。抜き出した単語は「種類別」に分類し、これを「小項目」とし、次に小項目を「器官系別」に分類し、「大項目」とした。

## 【結果】

有効回答率は95.7%であり、抽出された人体構造部位のワード数は1752個。一人当たり1.77個の自由記載回答数があった。大項目は8系統に分類され、小項目は49種類に分類された。

全体の大項目は1752語が抽出され、神経系(482語)、消化器系(418語)、循環器系(305語)、筋骨格系(254語)、呼吸器系(183語)の順に関心が高く、泌尿生殖器系(67語)、内分泌系(5語)、には関心の低く、その他(38語)となった。専門分野別にみると、①看護、鍼灸、救命では神経系に最も関心が高く、②薬学、栄養学では消化器系、③リハビリでは筋骨格系に最も関心の高いことが明らかになった。一方で、泌尿生殖器系や内分泌系に関しては全体関心が低い傾向にあった。

全体の小項目では循環器というワードが多いく、次いで脳、神経系と続いたが、食道や副腎などは各1名ずつと関心の低い部位として示された。また、今回のアンケートでは看護師のサンプル数が多く、小項目の上位3種である循環器、脳、神経系というワードの順位を引き上げている可能性もあったが、各専門職の小項目結果から、全体として循環器、脳、神経系に関心を示していることが分かった。一方、各専門分野の小項目結果では、それぞれ関心を抱く部位に特徴が見受けられた。例えば、リハでは内臓や筋骨格系のワードが多く、薬剤師では肺、栄養士では消化器、救命士では肝臓などのワードが上位に示されていた。

#### 【考察】

今回の結果から、各専門分野において、同じ見学実習を実施しているにも関わらず、関心を抱く部位に違いが生じることはある程度は予測されたものの、果たしてこれでよいのかという疑問も湧くと同時に、これまで見過ごされてきた部分でもあると思われる。このように各専門分野で関心のある部位に違いが生じる実態に関し、同じ解剖見学実習指導方法は見直しが必要であり、指導をする際には、今回明らかになった関心の高い構造に重点をおいて説明するとともに、関心は低くともその専門分野に重要と思われる構造に関しては、興味を抱かせるような工夫をしつつ指導を行う必要があると考えられた。また、これまで医学部・歯学部の解剖学教員が直接学生に指導を行っていた方法から、各専門分野養成校の教員が指導する方法へシフトできることが、「専門分野毎に専門知識との関連性も例示しつつ教授できる」という理想につながり、効率的且つ効果的な指導が展開されると思われる。

今後はこの教育体系につなげられる方法を検討し、パラメディカルスタッフが臨床現場において幅広い専門知識の下でチーム医療が確立できるよう貢献できればと考える。

本研究の限界については、まずサンプル数にばらつきがあった点が挙げられ、今後は各専門分野学生を同等のサンプル数にさせるためには、現状の見学実習受け入れの状況では時間がかかってしまう。また、見学実習時間かけられる時間に制約があることから、人体構造部位を満遍なく説明することが難しい点が挙げられる。これらについては、今後各専門職養成校教員への解剖実習教育体系の確立を目指す上では

障壁となるため、今後の見学実習体制をどのように整えてゆけばよいかというところから検討する必要がある。